

さくら

田中愛里

しわ一つないスーツを着て
ツルツルのパンプスを履く
外に出ると

空はねずみ色で
思わず笑ってしまう

風が吹いて

花びらが舞った

ひらひらと可憐に

きらきらと愛らしく。

音も立てずに地面に落ちた

薄紅色の頬が美しかった

自転車に乗ったおじさんがやってきて

無神経に花びらを轢いた

内臓が飛び出し、薄紅は泥にまみれた

地面にへばりつき、みっともなく笑った

わたしのスーツも

いつかはしわくちゃになって

ツルツルのパンプスも

踏まれて蹴られて

傷だらけになるのだろう

それでも さくらは生きる

涙を隠して

ゆらゆらと笑うのだ